

# 大阪男声合唱団 A N C O R の会報告

## もくじ

第 2 2 回 五つの O B 男声合唱の集い	2002 年 5 月 19 日	1
第 2 3 回 五つの O B 男声合唱の集い	2003 年 5 月 18 日	2
第 2 4 回 五つの O B 男声合唱の集い	2004 年 5 月 30 日	4
第 2 5 回 五つの男声合唱の集い	2005 年 5 月 29 日	6
第 2 6 回 五つの男声合唱の集い	2006 年 5 月 28 日	7
第 2 7 回 五つの男声合唱の集い	2007 年 5 月 27 日	8
第 2 8 回 五つの男声合唱の集い	2008 年 5 月 11 日	9
第 2 9 回 五つの男声合唱の集い	2009 年 5 月 23 日	10
第 3 0 回 五つの男声合唱の集い	2010 年 5 月 4 日	10
第 3 1 回 五つの男声合唱の集い	2011 年 5 月 29 日	11

### 第 2 2 回 五つの O B 男声合唱の集い 2002 年 5 月 19 日

■ 2002 年 5 月 19 日 (日)

■ 大阪国際交流センター

■ 出演者

指揮 中川知哉

T 1 竹村、角辻、糟谷、辻、山口、山崎、林 7 名

T 2 子安、角尾、細谷、藤本、大倉、内田、\*佐山、\*高橋、\*柳原 9 名

B 1 近藤、今村、上南、田口、榊田、前川、山田、\*辻本 8 名

B 2 桂、大島、青山、岡林、菅原、\*傘谷、\*鴻巣 7 名

\*印 現役 合計 32 名

■ 報告 (子安一男)

大阪男声は中川知哉さんの指揮で、「永訣の朝」を歌い、素晴らしい演奏で絶賛を博した。朝から梅雨の前触れのような小雨が降るなかを、32名の団員が10時に集合し、すぐに練習に入った。軽い発声練習の後、まだ表現が不十分なところをチェックし、11時からステージで通しの稽古を行う。実際に客席を前にして、客席に声が届くように自信を持って声を出すことを求められた。

午後2時に開演。大阪男声は第3ステージに登場。特別な緊張感はなく、むしろ淡々とした気持ちを感じられる。武知さんの前奏の第1音が力強く始まり、徐々に雰囲気が高ま

って行く。mp の第1声が確実に発せられた。

曲は順調に進み、声もよく出て安定した演奏が続く。後半には一段と盛り上がり、歌っている方が感動を覚えるほどに高潮した。最後の「ねがうー」の繰り返しが静かに、きれいにおさまり、曲を閉じた。盛大な拍手。珍しくブラボーの声が出た。

見事な演奏が出来た。中川さんが繰り返しこの詩の解釈、賢治の思想を述べてきたことが、この本番で生きたのだ。歌っているうち詩の意味が伝わってきて、曲に引き込まれるという不思議な感動を覚えた。

聴衆の反応も「5団体で最も良かった」「声がよく揃い、音程も確か」「歌詞がはっきり聴き取れた」「感動的だった」「音楽的に良かった」などと大好評であった。

青山団長も「こんな素晴らしい演奏が出来ることはそう何度もあることではない」と絶賛し、団員一同大きな満足感を味わった。

普段のまじめな練習の成果が出たことはいうまでもないが、武知朋子さんの音楽性豊かなピアノ伴奏に支えられたことも忘れてはならない。また、若手の団員や応援の阪大男声の現役の諸君が声に若さを注入してくれたことも好評の一因であった。

合同演奏は清瀬保二の「球根」と「原體剣舞連」で、当団からは10人が参加した。合同の練習に6割以上の出席率を求められたため、いつもより参加者が少なかったが、まとまりのある演奏で、日本の伝統に基づいたこの曲の芸術性をいくらかでも伝えることが出来たことと思われる。

終演の頃には空はすっかり晴れ上がり、5月の薫風が気持ち良く吹いていた。

## 第23回 五つのOB男声合唱の集い 2003年5月18日

■2003年5月18日(日)

■大阪国際交流センター 大ホール

■出演者

指揮 中川

T1 竹村、岡田、角辻、糟谷、辻、山崎 6名

T2 子安、細谷、藤本、内田、 4名

B1 近藤、橋本、今村、上南、田口、榊田、前川、山田 8名

B2 桂、大島、青山、岡林、佐々木、傘谷 6名

合計 25名

(前川はソロ、クワルテットではB2)

■報告(子安一男)

今年で23回目の“五つのOB男声合唱の集い”(ANCORの会)が5月18日(日)、去年と同じ大阪国際交流会館大ホールで開催された。大阪男声は中川知哉さんの指揮で、ユーモラスで、いつもとは一風変わった『マザー・グースのうた』を歌い、観客を喜ばせ

た。

今年は大阪男声が第1ステージに当たったので、事前の練習も1番目で、9時30分から始めた。ステージ練習では全曲を歌い、ステージでの感触を確かめたが、中川さんは声が客席に充分届かないし、子音が不明瞭でことばが聴き取れないので、客席の最後部に向かって歌うつもりになり、下品と思うくらい子音をきつく発するように注意した。

リズム、テンポや歌いまわしに新しい感覚が要求され、遊びも入れなければならず、いつもとはいささか勝手が違うが、団員に深刻さは見られず、むしろ楽しんでやろうというようなくつろいだ気分で開幕を待った。

14時開演。最初のステージで、緞帳の中で整列する。中川さんも始めからステージにいて、意表をつく形で指揮台に上がるやいなや棒を振り下ろし第1曲“ゆくゆくあるいて”の前奏を始めた。さすがに本番になるとしっかり声が出て、快調に滑り出した。この曲は3回繰り返すうちに段々疲れて、3回目はテンポも落ち、息も絶え絶えになる。ため息が出て、指揮者も肩を落とす芝居をして、いきなりお客さんを驚かせた。

第2曲“ミルクよバターに”は2グループに分かれて掛け合いながら、次第にテンポを上げ、プレスティッシモで叫んで終る。後奏が済んでから、T1山崎さんが「バターはモリナガを使用しました」とセリフ発した。客席から笑いが上がり、仕掛けたユーモアが伝わった。

これで気分を良くし、第3曲“ソロモン・グランディ”に流れこんだ。T1辻さん、T2内田さん、B1山田さん、B2前川さんでクワルテットを組み、コーラスと協奏する。苦労したジャズ調のリズムも武知朋子さんの見事な伴奏に乗ってなんとかこなして進む。中間に即興で全員が騒ぐところがあり、手拍子に足拍子、踊る者あり、クラッカーまで鳴らして盛り上げた。これを照れずに、うれしそうに演じたことで、お客さんを喜ばせた。クワルテットの力演も光った。

第4曲は一転して静かなメヌエット風の“ぼらはあかい”。第5曲は再びにぎやかな行進調の“くぎがふそくで”で、これにも中間に戦いの叫びを交わすところがあり、B2佐々木さんが発する「突撃」をきっかけに「撃て」、「行進始め」、「空襲警報発令」などが飛び交い、「同期の桜」の歌が重なり、阿鼻叫喚となってゆく。

第6曲黒人霊歌風の“ほねとかわのおんながいた”は前川さんのバスソロが入って気味の悪い詩を歌い、終曲の映画音楽風の“ゴータムむらの”は全編ピアノが刻む9/8拍子にのって単純な詩を歌い上げ、最後はフォルティッシモに盛り上がって演奏を終わった。

大阪男声の固いイメージに新風を吹き込んだおもしろくて楽しい演奏であったと多くの賛辞を頂いた。歌う方も楽しんで歌い、お客さんにも喜んでもらえて、まずはこの歌を取り上げた目的を達することが出来た。

最後のステージの合同演奏はロバート・ショウ編曲の『シー・シャンティ』から5曲を演奏した。100人を上回る人数が参加し、人数の迫力で男声合唱のおもしろさを伝えることが出来た。数十年も前からよく歌われていたので、特に年輩の観客には懐かしい曲が

聴けたと喜ばれた。アンコールは、なぜか今頃になって流行している“おじいさんの古時計”を披露して演奏会の幕を閉じた。

今年は入場者が定員一杯の千名にまで達した。前日に読売新聞がこの演奏会の記事を合同練習の写真入りで掲載したのが観客の動員に拍車をかけたらしい。

出演者の平均年齢が年々上昇するにもかかわらず会が盛況になって行くのは喜ばしいことである。

## 第24回 五つのOB男声合唱の集い 2004年5月30日

■2004年5月30日（日）

■大阪国際交流センター 大ホール

■出演者

指揮：中川

T1：竹村、岡田（伸）、辻、山崎

T2：子安、岩崎、木村、細谷、藤本、内田、米森、吉原、脇、丸尾

B1：近藤、橋本、今村、田口、榊田、山田、曾我部、野中

B2：桂、大島、田嶋、佐々木、菅原、傘谷 以上 29名

合同ステージのみの出演者は

指揮：根津

T1：倉永、浅井、T2：斎藤

B1：吉海、松本、岡田（康） B2：山口、西沢

■報告（竹村雅之）

「五つのOB男声合唱団の集い」は、今年は数えて第24回目、例年の年中行事としてわれわれ大阪男声合唱団にとっても無くてはならない参加行事となっている。

今年も5月30日（日）、大阪・上本町の大阪国際交流センターで午後2時から開演となった。

天気予報では、あまり良い天気では無さそうな気配であったが、いざ蓋を開けてみると、少々暑かったが、天気晴朗、好天にめぐまれた。

果たせるかな、午後2時の開演時にはすでに聴衆は満席を越えて、立ち見（立ち聴き？）の方々が多数発生する大盛況となった。

第1ステージは六甲男声合唱団の「ラシーヌの雅歌」（作詞：ラシーヌ、作曲：フォーレ）、「水の上の精霊の歌」（作詞：ゲーテ、作曲：シューベルト）、第2ステージは南濤会合唱団の「夜の青空」（6曲）（作詞：黒木 瞳、作曲：大中 恩）、第3ステージはコール・アカデミー関西OB会の「光あれ」（ゲーテンベルク・カンタータ）（4曲）（作曲：メンデル

スゾーン) と進んで行く。

インターミッションを挟んで第4ステージはアルマ・マータ・クワイアの「海に寄せる歌」(7曲)(作詞:三好達治、作曲:多田武彦)が終わると、第5ステージはいよいよ我が大阪男声合唱団である。

今年の大阪男声は指揮:中川知哉でJ.シベリウス作曲の男声合唱曲からアカペラで5曲。「Till havs (海へ)」(Jonasan Reuter)、「kuutamolla (月光に寄せて)」(Anino Suonino)、「Terve kuu (月よ、ようこそ)」(Karevala 49,403-422)、「Uusmaalaisten laulu(ウースマーの人々の歌)」(Kaarlo Terhi)、最後は、良く知られた「Finlandia-hymni (フィンランドイア讃歌)」(VA.Koskenniemi)で締めくくった。

昨年来、足かけ2年にわたり、シベリウスの持つ北欧独特のメロディー運びと和音の構築、そして、フィンランド語をはじめ、北欧の民族特有の語感とリズム感に裏打ちされた抒情性を今日のステージで、より多くの聴衆の方々々に伝えるべく、練習を重ねきた。

あの森と湖に彩られた自然の空気に囲まれた透明な水辺を、多くの聴衆の皆さんに感じ取って頂けたと思っている。演奏が終わるや、聴衆の皆様から頂いた熱心で暖かい拍手は、それを物語っていた。

さて、最後、第6ステージは毎年恒例の合同ステージである。

今年の合同ステージは大阪男声が当番、それで指揮者として元・大阪大学男声合唱団の指揮者・根津昌彦氏(1989年入団)に合同の指揮を依頼、ご本人の快諾を得て実現の運びとなった。

曲目は男声合唱とピアノのための「ゆうやけの歌」(作詞:川崎 洋、作曲:湯山 昭)を指揮:根津昌彦、ピアノ:細見真理子で演奏した。

何しろ例年の事ながら、合同の出演者は80余名を数える大合唱団、指揮者の根津氏はこの約10分に亘る大曲を、そのあふれるばかりの情熱とエネルギーで見事、纏め上げ、会場は満場の拍手喝采に包まれた。

続いてアンコールに応え、「海その愛」(作詞:岩谷時子、作曲:弾 厚作、合唱編曲:藤原武司)を演奏、第24回ANCORの会を見事締めくくった。

来年はこの「ANCORの会」もいよいよ第25回を数えるが、ますますの盛況を予感される今回の演奏会であった。

なお、恒例の懇親会は、会場近くの「グリル近鉄」で開かれた。演奏会を無事終えた開放感に浸りながら、乾杯に始まり、関係者の挨拶の後、歓談の輪は大いに盛り上がり、恒例のANCOR会員の青春の思い出満載の合唱曲を次々に歌い、いやが上にも氣勢は盛り上がった。

合唱団の垣根を越え、また年齢を超えて歓談、懇親に時の経つのも忘れる楽しい一時を過ごす内、アツという間に予定の時刻も過ぎ、惜しくも来年を約しての解散となった。

## 第25回 五つの男声合唱の集い 2005年5月29日

■2005年5月29日(日) 14:00開演

■大阪国際交流センター 大ホール

■出演者

指揮 中川

T1 竹村、名迫、岡田、角辻、山崎 5名

T2 子安、木村、糟谷、細谷、藤本、辻、内田 7名

B1 近藤、今村、田口、梶田、山田、\*野中、\*渡辺 7名

B2 桂、大島、中野、田嶋、佐々木、\*田麥、\*瀬川 7名

\*印 現役 合計 26名(指揮者を除く)

合同演奏参加者は

中川、竹村、角辻、子安、内田、近藤、今村、田口、梶田、桂、佐々木 11名

■報告(竹村雅之)

大阪男声は中川知哉さんの指揮で「ノスタルジア」から5曲を、合同演奏は第25回の記念として弦楽アンサンブルの伴奏で2曲を演奏した。

この5月は好天続きで、この日も朝から晴れ上がって気持ちのよい薫風がそよぎ、演奏会には絶好の日和になった。大阪男声は10時に集まり、直ちに練習に入った。事前の練習は合同演奏に時間を割いたため、各団の練習時間が制限されていささか慌ただしかったが、声出しと不安なところのチェックを行った。

ステージ練習では響きを確認するために立つ位置を前後に変えてみたが、やや後で平台に一部乗るのが反響板の効果でよく響くことがわかった。

14時の開演時には客席は全て埋まり、立ち見の人も出る状態になった。

大阪男声は第3ステージで、その前にもう一度20分ほど練習をしてステージに上がった。

一年かけて練習した割りには仕上がり状態は完璧でなく、多少の不安を抱いてのオンステとなったが、生まれれば不安はどこかへ、歌に没入していった。

声を張り上げずに抑え気味に歌い、パート間で聴きあうことも意識できて、小さなミスはあったものの、底力を発揮して、けっこう満足できる出来になった。

今年の曲は滝廉太郎の「花」「箱根八里」、山田耕筰の「この道」、(しばしも休まず)の「村の鍛冶屋」、(兎追いしかの山)の「故郷」と、誰もがよく知っている日本の名歌を新進の信長貴富が新しい感覚を盛り込み編曲したもので、懐かしい曲を男声合唱で聴けて楽しめたという客席の声が多かった。

声が良くなったという感想も聞かれ、萩原さん、和田さんの発声指導と皆の精進の成果が現れていることが実感された。

合同演奏は神戸大学教授の斉田好男さんを指揮者に迎え、ヴァイオリンを除く弦楽器

15名のアンサンブルの伴奏で約80名がメンデルスゾーンの「晩禱」とシューベルトの「水の上の精霊の歌」を歌った。

メンデルスゾーンは厳粛な教会音楽調、シューベルトは男声8部の分厚いハーモニーに低音系の伴奏が荘重な響きを加え、斉田さんのつぼを押さえたうまい音楽作りに導かれて、会場を壮大な音響の渦に包み込んだ。

メンデルスゾーンでは中川さんが中間部の四重唱のトップテナーを受け持ち、指揮の疲れも見せず伸びやかな声で四重唱をリードして称賛を浴びた。

アンコールは趣向を変えてディズニーの「ラ・ラ・ルー」で緊張したお客さんの肩をほぐした。

今年は各団の力が充実し、親しみ易い曲が多く、合同演奏のおもしろさも加わって例年よりも一段と楽しい演奏会になり、満員の千人を超えるお客さんに喜んでもらえて、ANCORの25年を祝う会としては大成功であった。

今年も現役の阪大男声から4名がステージに加わり、ステージマネージャーと受け付け係も担当してくれた。こうした現役との緊密な関係は他の団にはない強味で、日曜日にもかかわらず応援してくれた現役の諸君に感謝するとともに、何時までもこの良きつながりが保てることを願うものである。

## 第26回 五つの男声合唱の集い 2006年5月28日

■2006年5月28日(日) 14:00開演

■大阪国際交流センター 大ホール

■出演者

指揮 萩原寛明、 ピアノ 武知朋子

T1 太田、名迫、岡田、辻、山口、内田、\*西口、#中村、#三木 9名

T2 子安、岩崎、木村、糟谷、細谷、藤本、\*野上、\*高橋、#越野、#山本 10名

B1 近藤、橋本、今村、田口、梶田、片桐、山田、#近野、#津國 9名

B2 桂、大島、中野、三瀬、田嶋、菅原、#五島、#西尾 8名

\*印 現役 #印 客員 合計 36名

合同演奏の出演者は

桂、近藤、子安、三瀬、今村、田口、田嶋、内田、

\*西口、\*野上、\*高橋、#中村 12名

■報告(子安一男)

大阪男声は5月28日(日)に大阪国際交流センターで開催された「第26回五つの男声合唱の集い」(ANCORの会)に出演した。

出演の各団の平均年齢は年々上昇しているにもかかわらず、演奏会の内容は益々充実し

て、今回も千人を超える満員の聴衆を集めた。

大阪男声は長年指揮をされた中川さんに代わって、4年前からボイストレーナーとして指導を受けている萩原寛明さんに指揮をお願いした。

また初めての試みとして、病欠や退団による団員の減少を補い、団員の技量の向上とより上質の演奏を目指して、8名の若いプロの歌手をエキストラとして入れた。

出演の各団とも午前中から順次最後の練習をして、14時の開演に備えた。萩原さんは本番で集中力を高め、最高の状態に持ってゆけるようにと無理のない練習を行い、本番を待った。

大阪男声は三好達治作詞、木下牧子作曲の男声合唱組曲「Enfancefinie」(アンファン・フィニ)を歌った。第3ステージに36名が黒服に黒の蝶ネクタイで登壇。緊張感はあるが、人数が多いことと、助っ人が入っていることの安心感から、無理なく声が出て、きれいな響きを作り出していった。萩原さんのわかりやすい棒さばきと、武知さんのしなやかなピアノ伴奏に乗って、この曲の繊細な旋律と和声、詩の美しさを見事に歌い上げることが出来た。

練習で特に鍛えられた発声と言葉のニュアンスを大事にした歌い方が効果を見せ、声の美しさと響きの面で他の団より一歩抜きん出た演奏を披露できた。

5団体の演奏が終わったあとは合同演奏で、100名がステージ一杯に並んで、「ボルガの船歌」「カリンカ」「カチューシャ」など、昔は男声合唱の重要なレパートリーであったロシア民謡を7曲歌った。指揮は六甲男声の田中安夫さんで、各団から交代でソリストが出て、それぞれの持ち味を出した。当団はB1今村さんとエキストラのT1中村さんがソロを受け持った。中村さんの「カリンカ」のソロの輝かしい響きは圧倒的で、聴衆の耳をそばだてた。

大阪男声は指揮者も含めて阪大男声のOBだけの純血主義を守ってきたが、今回は外部の達人を加えて画期を画する演奏になった。この環境の変化が刺激となったのか、本来の団員も去年より数名増加し、阪大男声の現役も従来どおり参加してくれて、36名のステージを構成し、大阪男声の変身振りを印象付けた。

## 第27回 五つの男声合唱の集い 2007年5月27日

■2007年5月27日(日) 14:00開演

■大阪国際交流センター 大ホール

■出演者

指揮 萩原寛明、ピアノ 武知朋子

T1 太田、名迫、岡田、辻、山口、内田、\*清水、#三木 8名

T2 子安、木村、糟谷、田村、細谷、藤本、\*高橋、\*田中、  
#越野、#山本、#角地 11名



B 1 近藤、橋本、今村、田口、榊田、荒木、片桐、前川、  
山田、#野々垣、#津國 11名

B 2 桂、大島、中野、三瀬、田嶋、菅原、#五島、#西尾 8名

\*印 現役 #印 客員 合計 38名

合同演奏の出演者は

桂、近藤、子安、今村、田村、田口、榊田、田嶋、荒木 9名

#### ■報告（今村陽一）

「第27回五つの男声合唱の集い」（ANCORの会）は5月27日（日）に大阪国際交流センターで開催された。出演の各団の平均年齢は年々上昇しているにもかかわらず、演奏会の内容は益々充実して、今回も千人を超える満員の聴衆を集めた。

大阪男声は萩原さんの指揮で、寺山修司作詞、信長貴富作曲の「思い出すために」を歌った。第4ステージに38名が黒服に黒の蝶ネクタイで登壇。人数が多いことと、助っ人が入っていることの安心感から、無理なく声が出て、きれいな響きを作り出していった。萩原さんの分かり易い棒さばき、武知さんの華麗なピアノと、男声二声の旋律と和声で、飾り気のない寺山の詩を見事に歌い上げた。客席から「ブラボー」の声が飛び、満足のいく演奏であった。

5団体の演奏が終わったあとの合同演奏は、100名がステージ一杯に並んで、吉野弘作詞、高田三郎作曲、須賀敬一編曲の「心の四季」から、5曲を歌った。指揮は客演の梶田慶太さんで、団員たちの息子のような若者であったが、おじさん達を巧くリードしてくれた。

## 第28回 五つの男声合唱の集い 2008年5月11日

■2008年5月11日（日）14：00開演

■大阪国際交流センター 大ホール

■出演者（単独ステージ）

T 1 名迫行康、岡田伸太郎、辻輝夫、山口三樹、内田裕樹、角畑秀一、三木秀信

T 2 子安一男、木村正通、糟谷慶作、田村坦之、細谷正純、藤本好司、詠田英夫  
野上貴弘、高橋宏明、田中秀樹

B 1 近藤毅、橋本聰一、今村陽一、田口孝人、榊田征也、荒木正雄、片桐知之  
豊原力、山田雅朗、加藤慧悟

B 2 桂豊、大島恵介、中野洋介、三瀬高司、田嶋克彦、菅原啓祐、奥村厚志

#### ■報告（今村陽一）

出場5団体の頭文字を並べたジョイントコンサート、通称「ANCORの会」に出演。

単独ステージでは、萩原寛明さんの指揮で木下牧子作曲の「無伴奏男声合唱のためのわたしはカメレオン」(全6曲)を歌った。本番直前までハーモニーや表現力に不満が多かったが、さすがに本番に強い「大阪男声」、他の団とは一味違う「名演奏」が披露できた。しかし、未完成の部分も多く、7月の定演までには更に満足できる演奏を目指す必要があるようだ。お互いに聴きあった上でもっと訴える表現を一人ひとりができたら、と思った。

合同演奏は、南濤会合唱団、今西弘一氏の指揮で「Sea Chanty」を5曲うたった。大阪男声からは7名が参加したが、合同演奏にはもっと大勢の参加が望まれる。

## 第29回 五つの男声合唱の集い 2009年5月23日

■2009年5月23日(土) 14:00開演

■大阪国際交流センター 大ホール

■出演者(単独ステージ、\*現役)

T1(6名) 名迫行康、岡田伸太郎、辻輝夫、山口三樹、野上貴弘、三木秀信(客演)

T2(5名) 子安一男、木村正通、田村坦之、藤本好司、詠田英夫

B1(9名) 近藤毅、橋本聰一、今村陽一、田口孝人、榊田征也、荒木正雄、片桐知之  
豊原力、\*長瀬義大

B2(7名) 桂豊、大島恵介、三瀬高司、田嶋克彦、前川治治、\*奥村厚志、\*宇仁 和将

■報告(今村陽一)

出場5団体の頭文字を並べたジョイントコンサート、通称「ANCORの会」に出演、単独ステージでは、萩原寛明さんの指揮、武知朋子さんのピアノで高田三郎作曲の「男声合唱組曲、水のいのち」(全5曲)を歌った。さすがに本番に強い「大阪男声」、他の団とは一味違う「名演奏」が披露できた。しかし、さらに上の高みを目指して、7月の定演ではより満足できる演奏をしたい。

合同演奏は、岩城拓也氏の指揮、喜多光三氏のピアノで「ファウストの劫罰」より5曲を演奏した。フランス語であったためか、大阪男声からは5名の参加にとどまったが、もっと大勢の参加が望まれる。

## 第30回 五つの男声合唱の集い 2010年5月4日

■2010年5月4日(火・休日) 13:00開演

■兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール

■演奏曲

<大阪男声ステージ>

大岡 信作詞、木下牧子作曲「方舟」

指揮 萩原寛明、ピアノ 武知朋子

<合同演奏ステージ>

堀口大学作詞、清水脩作曲「月光とピエロ」

指揮 本城正博

#### ■報告（田口孝人）

今年の“ANCORの会”演奏会は第30回記念とあって、兵庫県立芸術文化センター大ホールで満員（入場できなかった人も若干あったそうです）の聴衆を集めて開催されました。30名程が揃い、あの難曲「方舟」に挑戦しました。しっかり集中して、何とか止まらずに最後まで歌いきったので及第点というところでしょう。それにしても何年振りかの大緊張の舞台でした。合同演奏の本城さん指揮の「月光とピエロ」は余裕充分で、仕上がりも万全という感じでした。

### 第31回 五つの男声合唱の集い 2011年5月29日

■2011年5月29日（日）14：30開演

■大阪国際交流センター大ホール曲目

■演奏曲

（1）大阪男声ステージ

星野富弘作詞、新美徳英作曲

男声合唱とピアノのための「花に寄せて」

指揮 萩原寛明、ピアノ 山口梨紗

（2）合同演奏ステージ

大島ミチル作曲

男声合唱組曲「御誦」

指揮 平林 陽、ピアノ 長澤圭介、打楽器 山縣雅志、光本諭史

■出演者（33名、\*は現役）

T1（8名）：名迫、岡田、辻輝夫、内田、野上、\*野脇、\*入山、\*佐藤

T2（9名）：子安、木村、中村、田村、細谷、藤本、詠田、\*重岡、\*辻啓樹

B1（9名）：近藤、田口、榊田、荒木、片桐、豊原、山田、\*大川、\*中村

B2（7名）：大島、中野、三瀬、今村、前川、\*青田、\*池田

■報告

大阪男声合唱団は第2回から毎年参加しています。今回のステージは星野富弘作詩、新美徳英作曲、男声合唱とピアノのための「花に寄せて」全7曲を萩原寛明先生の指揮、山口梨紗さんのピアノで歌いました。

この曲は7月の定期演奏会でも演奏しますが、なかなかの名演奏で聴衆を魅了しました。

今回は現役の学生 9 名が特別参加、現役との交流が深まり有意義な一日でした。